

まずは月次決算の大切さを理解しておこう

月次決算の4つのメリットとは

中小企業にとって月次決算は経営の羅針盤とも言える重要なツールです。

月次決算書を毎月作成し、分析することで、経営者は会社の現状を正確に把握し、適切な意思決定を行なうことができます。

古田土会計グループでは約4000社の顧問先があり、年商50000万円（50億円の規模の中小企業の月次決算）のお手伝いをしています。月次決算書を使いながら毎月数字の説明をすることで、多くの経営者、経理の方が数字

に強くなり、数字で経営判断ができるようになっていきます。

本稿では、月次決算書をどう作り、どのように活用すれば良いのかを解説していきますが、その前に「月次決算がなぜ大切なのか」についてお話ししておきましょう。

世の中には月次決算書を作らず、本決算の時にだけ数字をまとめ、慌てて税務申告をしている会社も多くあります。義務として年に1回の決算書だけ作れば誰からも文句を言われることはありませんが、それでは自社の現状を適切に把握することが難しく、感覚に頼った経営になってしまいます。

月次決算を行なうことで、以下の効果を得ることができます。

1. 早い経営判断ができる

月次決算を行なうことで、期の途中ででもリアルタイムに業績を捉えることができます。感覚ではなく数字で把握することによって、当月から素早く対策が打てるようになります。

本決算による決算書は、通常、決算月から約2ヵ月後に出来上がります。ですから、年に1回、ようやく決算書が出来上がってから1年分の数字を確認・分析しているようでは、経営という観点ではもはや手遅れです。半年や四半期に1回、数字をまとめている会社もあると思いますが、市場の変化に迅速に対応するために、中小企業であ

